

インタビュー②

# 安心できる居場所 住みよい地域を目指して

地区福祉委員会は、地域の人が集える居場所づくりを行っているボランティアです。毎月行っている食事会やふれあい喫茶、健康体操のほか、年に一度の運動会や敬老の集いなどの催しを開いています。新型コロナウイルスの影響で、定例の催しが中止になると、多くの人から「再開を楽しみにしている」と声があり、地域の人々の安心できる居場所になっていると感じます。

**身近に相談できる人**  
催しには医師や保健師、CSWなど専門職の人が来るので、普段の悩みを相談することができます。私自身も催しに参加した人から、相談を受けることがあります。先日、通帳の暗証番号を電話で教えてしまったと相談があり、警察などと連携し、特殊詐欺被害を未然に防ぐことができました。地域に身近に相談できる人がいると安心して暮らすことにつながります。知らない人より顔見知り相談。やっぱり人との関わりが大事です。



北大冠地区福祉委員会  
岩崎重信さん

7年前から地区福祉委員として活動。今年4月に策定した、大冠地区福祉活動計画の策定委員長を務める。

**次世代につなぐ**  
地域で開く催しの参加人数を10年分調べてみると、ほぼ横ばいでした。参加者は同じ顔触れの人が多いため、高齢化が進むと参加者が減ってしまう可能性があります。「地域の人たちの居場所をつくりたい」だけでなく、「地域福祉の活動を次世代につなげたい」。地区福祉委員会の活動を知ってもらい、協力してもらえたら人を増やすことが大切だと考え、地区福祉活動計画(下欄)を策定しました。

**地域の声を計画に反映**  
計画を作る際に、自治会やPTA、保育園、地域の団体など52カ所に、地域をより住みやすくするためのアンケート

のご協力をいただきました。子育て世代からは「子どもと楽しめるところが欲しい」、高齢者からは「若い人も行事に参加して地域の活性化につなげたい」などの意見がありました。地域がこうなったらいいな、こうしていきたい、に着眼して計画ができ上がりました。

**より良い地域へ**  
計画は策定すれば終わりではありません。私自身、計画をきっかけに、どの世代の人も地域に関わりたいと思える地域にしていきたいと強く思います。今は、主な参加者は高齢者ですが、どの世代の人も参加したくなるような催しを開催して、地域みんなの居場所をつくっていききたいです。

## 地域ごとの課題を共有 地区福祉活動計画の策定

同計画は、「地域福祉計画・地域福祉活動計画」をもとに、各地区福祉委員会ごとに、地域で活動する福祉関係者が参加し、地域の实情に沿って、福祉課題の共有化を図り策定を行う計画です。

社協では、計画策定や目標に沿った福祉活動について支援するとともに、計画をきっかけに、地域の団体や住民が活動への理解を深め、積極的に参加するよう働きかけています。



計画策定会議の様子

インタビュー①

# 悩みや困りごと 寄り添い解決へ

コミュニケーションソーシャルワーカー(以下、CSW)には、自分から助けを求めることが難しい人や、誰に相談したらいいかわからない人のつらさ、悩みに寄り添いながら、相談者が安心して生活できるようにする役割があります。悩みについて話し合い、地域の人や専門機関と連携して、相談者にとって適切な支援方法を一緒に考えます。

**孤立させない**  
近年、子育て中やひとり親家庭の親子、ひきこもりなどの困りごとを抱える人からの相談が増えていきます。子育てに悩んでいても、親や地域に助けを求められず、家庭内だけで解決しようとして、悩みを抱え込む人が多くいます。社協では、長期問ひきこもりの生活をしてきた人とその家族の集いの場を提供しています。また、子育て世代や地域の誰もが集い交流できる場も地区福祉委員会と連携して開設しています。

**気付きから問題を発見**  
悩みや気付きに大小はあり

ません。最近、近所で見掛けなくなった、顔色が悪いなど、少しでも変化を感じる人があれば、ぜひご相談ください。それつが回っていないと、服が汚れている人がいるという相談から、若年性認知症であることが分かり、治療を受けることがつなごうとしたケースがありました。相談することを迷わず、気軽に頼ってもらいたいのです。

**連携が必要**  
CSWは相談者だけでなく、世帯全体の悩みを解決へ導く手助けをします。ひきこもりの子どもがいるという相談を受け、詳しい話を聞くと、家族も高齢で生活が苦しく困っているというケースがありました。この場合



社会福祉協議会  
コミュニティソーシャルワーカー  
樋上遥香さん

社会福祉士の資格を持ち、平成23年から社協に勤務。地域活動などの業務を担当したのち、現在はCSW業務を担当。

就労支援や生活保護については、役所へ、高齢者の生活課題は地域包括支援センターなどへ、必要に応じて相談し、連携します。悩みを解決するためには、さまざまな専門機関が、協力し合い、支え合うことが大切です。

相談対応をより迅速に行うため、今年4月から地域包括支援センターの1つである高槻中央地域包括支援センターがCSWと同じ社協の組織になりました(下欄)。

今後、同センターの考え方や取り組みを知り、他の地域包括支援センターとの仕組みづくりにも役立てたいと思います。すべての悩みが解決につながるように、切れ目のない支援をスムーズに行っていきます。

## 高齢者の相談支援機能を強化 高槻中央地域包括支援センターが社協へ

令和3年4月から、高槻中央地域包括支援センターの運営を社協が担うことになりました。CSWや生活支援コーディネーターと同じ組織の職員として、日頃から情報共有を行う機会をつくり、理解を深めることで、互いの強みを生かし、社協の相談支援機能の強化を図っています。

〓 いろいろな悩みに対応します 〓



生活支援コーディネーター  
中村健さん

CSW  
樋上遥香さん

高槻中央地域包括支援センター  
中村薫さん